

医療法人社団 有心会

院内感染対策マニュアル

2014年版

★感染防止対策は細やかな心がけから始まります。

スタッフ全員が把握し正しく清潔であることを心がけましょう。

★感染経路とその代表的疾患：感染経路の遮断

・接触感染

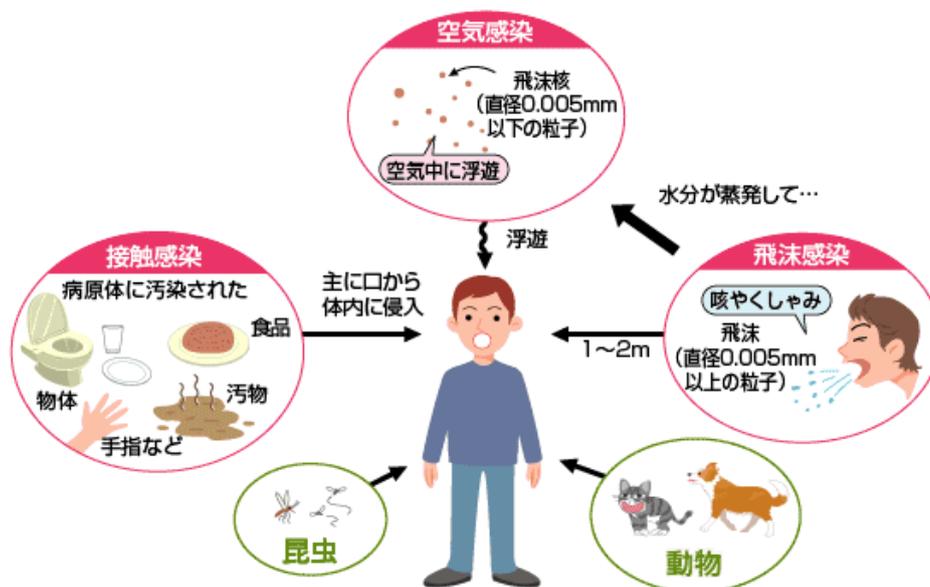
虫歯、歯周病全般、多剤耐性菌感染症（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）、バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）、多剤耐性緑膿菌（MDRP）など）、クロストリジウム・ディフィシャル、O-157、赤痢菌、黄色ブドウ球菌、ジフテリア（皮膚型）、A群連鎖球菌、A型肝炎ウイルス、ロタウイルス、RSウイルス、パラインフルエンザウイルス、単純ヘルペスウイルス、アデノウイルス、エンテロウイルス、疥癬など

・飛沫感染

侵襲性B型インフルエンザ菌感染(髄膜炎、肺炎、喉頭炎、敗血症)、侵襲性髄膜炎菌感染(髄膜炎、肺炎、敗血症)、ジフテリア、マイコプラズマ、百日咳、肺ペスト、溶連菌性咽頭炎、インフルエンザ、猩紅熱、アデノウイルス、ムンプス、パノレボウイノレス、風疹など

・空気感染

麻疹、水痘、結核レジオネラ（ヒト-ヒトの感染はなし）



★感染源について

【感染源になりうるもの】

- ① すべての血液
- ② 汗を除くすべての体液、分泌液、排泄物
- ③ 損傷皮膚（手あれや皮膚病変を含む）
- ④ 粘膜

【感染源になりにくいもの】

- ① 傷や発疹・手あれのない健常な皮膚。ただし、感染経路にはなる。
- ② 正常な皮膚からの汗
- ③ 被覆・閉鎖され、表面が湿っていない創傷
- ④ 肉眼的汚染のない床、壁、天井などの居住空間

★一般予防策（手洗い）

外出時でも、昼食などの時スタッフが感染したものを、スタッフ経由で患者様に感染する危険性があります。われわれ医療従事者が院内感染を媒介していることを忘れてはいけません。

手洗い・手指の消毒は院内感染予防の基本です。

下記事項時、手洗いを心がけてください。また日頃より手荒れに注意してください。

- ・事務作業を行った後・処置室への入室時、退室時
- ・患者様への接触の前後・汚物を処理した後
- ・処置セットを組む前、注射液を調整する前
- ・床のものを拾った後（床にものを落とすときは一連の作業が終わってから拾うこと）
- ・靴など床にあるものにさわった後
- ・外出時、また外出先から戻った場合。

日常的手洗い方法

衛生的手洗い方法

手術時手洗い方法

に分けて、手洗いを入念にしてください。



《手洗い方法の3段階》

1) 日常的手洗い：食事の前や日常的な行動に伴った手洗い法。

日常的手洗いはもともと基本的であり、すべての手洗いはこれが原点。

* 流水と石鹸で洗い流す。

2) 衛生的手洗い：医療行為の前後や、手指が細菌などにより汚染されたと思われる時に行う手洗い法。

手順よく20～30秒間ほどで行う。

* 消毒洗剤（クロルヘキシジン・ポピドンヨウド・塩化ベンザルコニウム等）を用いて洗い流す方法。

* アルコール擦式手指消毒剤を擦り込む方法。（目に見える汚染がない場合）

※いずれの場合も、流水と石鹸による手洗いを適宜組み合わせる。

3) 手術時手洗い：術前にブラシと消毒薬を使用して行う手洗い法。

《基本の手洗い方法》

- 1.まず流水で洗浄し、液体石けんもしくは消毒液を手にとる
- 2.手のひらをよくこする 3.手の甲をよくこする
- 4.指先、爪の内側を洗う 5.指の間を洗う
- 6.親指と手のひらをねじり洗い 7.手首を洗う
- 8.手のしずくを絞り取る（手を振って周囲にしずくをとばさないよう注意）
- 9.ペーパータオルを使用し（2～3枚）、手を完全に乾燥する
10. 使用したペーパータオルで蛇口を閉める（蛇口に手が触れないよう注意）

《その他の注意事項》

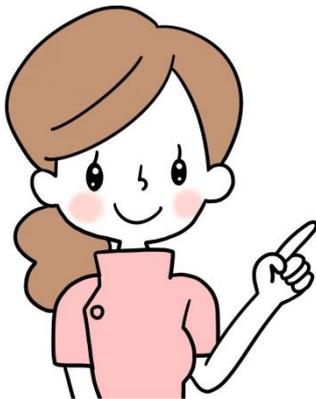
- * 指輪、腕時計は使用しない
- * カーディガンは袖の短目のものを着用する
- * 爪は短くする
- * 手荒れ防止策をとる（手のスキンケアに心がける：プライムローション）
- * 蛇口とバルブも清潔に保ちましょう。
- * 手洗い場の周囲のしずくはこまめに拭き、常に乾燥させておく
- * 手洗いは「1処置1手洗い」が原則
- * **速乾性擦式手指消毒薬は30秒以上手指に擦り込む←手指衛生の基本**
- * ペーパータオルで手を拭いてください。
- * **オペアシスト時、手袋のままで備品、マウス材料の用意をしない**

★身だしなみについて

特にドクターはスタッフに指導する立場もあり、髪型・髭・キャップ・マスクの着用など率先して身だしなみに注意してください。

- ・ ネイルアート・ピアス禁止
- ・ ロングヘアーの方は診療中必ず束ねてください。
また、前髪などが顔の部分に当たらないように留めてください。
- ・ 咳が出るときは、マスクを着用する。
- ・ 手荒れのひどいときは、手袋を着用。
- ・ 処置で使用した手袋をはずした後は、必ず手洗いをする。
- ・ 休憩時間などに外出の際には、必ず着替えるか上着を着てください。
靴もナースシューズではなく履き替えてください（用意しています）
- ・ 白衣はこまめに洗濯。カーディガンは、患者と接するときは着用しない。
- ・ 爪は短く。指輪や腕時計はしない。一処置一手洗い
- ・ 靴のかかとを踏んでいませんか？
汚れていませんか？サンダルは、直接、針や汚染物に晒されるので、危険です

※取り決めのない事項についても、客観的に見て違和感のある場合は都度注意します。



★健康診断は必ず受けてください。

- ・正社員スタッフの方には、年一回健康診断を受診していただきます。
- ・「肝炎ウイルス検査」費用は医院がすべて負担します。
「再検査」の結果が出た場合は、必ず再検査を受けていただき、業務に支障が出ないように万全に整えていただけますよう、お願いいたします。また「再検査」の結果を必ず理事長に報告してください。（再検査の費用は自費負担です）

・インフルエンザ・B型肝炎の予防接種

医院に携わる者として、インフルエンザ・B型肝炎の予防接種は受けてもらいます。
費用は全額医院負担です。接種等の管理は各自でお願いします。

★クリニックの衛生面に関して

床のごみが目に付いた際は即時清掃を行ってください。
ほこりのたまりやすい所も常に注意しておきましょう。
また、私物でも床に物を置いたりしないよう気を付けましょう。

院内で清掃スケジュールを決め常に清潔に保つようお願いします。



★院内機材の消毒について

下記に従っての消毒・滅菌をお願いします。

・消毒のスポルディング分類

◎機材分類クリティカル：通常滅菌の組織や血管に挿入されるもの

処置：滅菌器での滅菌

※タービン・ストレート・コントラ類も1患者様ごとに滅菌を行ってください。

◎機材分類セミクリティカル：損傷のない粘膜及び創のある皮膚に接触するもの

処置：高水準消毒液・中水準消毒液

◎機材分類ノンクリティカル：損傷のない皮膚と接触するもの

処置：洗浄または低水準消毒(アルコール等)



★治療用備品の使い捨てについて

使い捨て用備品に関しては、医療廃棄物処理用ゴミ箱に廃棄をお願いいたします。

※医療廃棄物処理用ゴミ箱はバイオハザードマークが見えるように設置しておきましょう。

バイオハザードマークの色	内容物	ゴミ箱
 赤色	血液など液状、泥状のもの	業者指定のごみ箱に分けて処理をお願いします。 必ずゴミ箱に張り付けてある。バイオハザードマークを確認してください。
 黄色	注射針、メスなど鋭利なもの	
 橙色	血液が付着したガーゼなど固形状のもの	

★埋入備品の取り扱いについて

当院のインプラント埋入オペでは使用するインプラントは必ず直前に開封した物だけを使用してください。開封してしまっている場合や、インプラントの消費期限が切れてしまっている場合は、まとめて本部への送付をお願いいたします。

インプラントキャップ（フラットキャップ等）も使い捨てをお願いします。

★最後に

院内の消毒・管理体制を万全にしても、

スタッフの「ついうっかり」で院内感染が発生します。

院内感染はどんな良い治療やサービスを行っていても、一つの院内感染で、

有心会全体の医院の信用を失墜させてしまうこととなります。

日頃の習慣や無意識を見直して心がけましょう。